



期待と信頼に応える公教育の実現 -「CHECK」そして「ACTION」- 「堺・教育フォーラム」より No.2

平成20年12月26日に開催した「堺・教育フォーラム」の分科会で発表があった各学校の取組概要等を紹介いたしますので、各学校園の取組の参考としてください。

第1分科会【学力向上】

「総合的な学力を育成する」～「総合学力プロフィール」と「学力向上プラン」に基づく、堺市の学力向上の取組～

- ① 学力向上を必要とする社会的背景…個人が深く考え、行動することが求められる社会
- ② 堺市の教科学力の状況…授業の中で「確かな基礎知識」「考える力」「書く力」を身につけることに課題
- ③ 堺市の生活・学習の状況
 - 「家庭での学習時間」「教科学力に対する関心・意欲・態度」「授業に対する姿勢や学習のけじめ」「読書」「朝食の摂取や規則正しい生活」「豊かな心に関わること」が、教科学力に強い影響
- ④ 本市の学力向上に対する基本的な考え方
 - 総合的な学力の育成・授業改善、生活や学習習慣の改善、バランスのとれた総合的な取組
 - 学校・子ども・地域等の実態に応じた「学力向上プラン」に基づく取組の推進
- ⑤ 今後の課題
 - 「家庭学習の課題の出し方」等、家庭学習についての共通理解
 - 「研究授業を伴う校内研修」「テストの改善」等を通じた授業改善

実践発表概要① 浜寺石津小学校「学校のチーム力の向上」

- ① 学校経営方針
 - 「チーム力」で「学校力」を向上させよう！
 - ② 校内研修の工夫
 - 教科書を基本に、学習指導要領を具現化する指導案を作成し、いつでも誰でも手の届く研修の充実
 - 学年単位で授業提案
事前授業を含め、全員が授業を見せ合うことによる教師間の学び合い、育ち合いの深まり
 - 提案授業の視点の設定
提案授業の見どころを明示し、討議会を充実
 - ③ 言語活動の充実
 - 各学年の段階に応じた交流のあり方を設定
 - 全学年・全学級で算数のノート指導
 - 意識調査による課題と成果の把握
 - 年度末の学力到達度調査で効果検証
 - ④ ノート指導の充実
 - 基本型を共通理解
 - 成長を子どもや指導者、保護者に発信
 - ⑤ 校報により取組の成果を発信
 - 他教科等へ発展
 - 若手教員の算数指導法の向上
- 成果 縦につながる指導の効果
同一教科で研究を継続することのよさ
ノート指導のマニュアル化のよさ } 気づき

実践発表概要② 五箇荘東小学校「学力向上への取組」

- ① 全国学力・学習状況調査結果
 - ショックからの出発 6年間の集大成
 - 学ぶ集団づくりを通じた学習意欲の向上
- ② 学力向上に向けての取組
 - 「取組一覧表」の作成
 - 「知」育
 - ・各学年で実態調査を実施し、課題を把握
 - ・朝の会（朝学）の充実により遅刻者を減らし、1時間目の授業をスムーズに
 - ・授業中の重点指導の共通理解
 - ・少人数指導、きめ細かな指導の充実
 - ・宿題についての共通理解

○「徳」育

- ・「エンピツ指導の徹底」など、学習規律を確立
- ・各学年の特徴的な取組
低学年 週1回「スタディールーム」開設
中学年 ハンドサインの活用 ノート指導
高学年 少人数指導担当者が加わっての教材研
- ・「あいさつ・返事」「くつをそろえる」「トイレのスリッパの整頓」等の指導の徹底

○「体」育

- ・健康カードを毎月調査し、児童の生活状況について把握

③学校を開く

- 各学年の取組状況を毎月1回報告し、共通理解
- 1週間の各学年の取組等の情報発信
- 「学ぶなかま」で、その日の各学年の様子を情報発信
- 校長通信で、教職員の取組を情報発信

④リーダーシップとモチベーションのサイクル

- 職員のリーダーシップの発揮とモチベーションの高揚による学力向上、そのことによる更なる高揚へ

実践発表概要③

土師小学校「総合的な学力育成に向けて」

①校内組織の改善

②研修委員会（よく考える子）

- 確かな学力を育成するための指導のあり方を検討・推進
- 「学習のきまり」を各学年の学習段階の目標とし、年間を通して、それに基づいた学習の推進
- 指導が確かなものになるよう、評価基準・評価方法について研究
- 学年の系統性を考え、総合的な学習の時間についてカリキュラム作成

③「学習のきまり」

- 各学年で取り組む「聞く」「話す」「書く」「指導者の役割」「家庭学習」の項目について協議・検討し、全職員で共通理解して学校体制で取り組む

④「学習のきまり」の活用

- 学年会で月一回、「学習のきまり」をもとに、児童の様子・成長などについて確認・話し合い
- 研修委員会で報告
- 児童に不足している力を各学年で検討し、1つに集中的に取り組む
- 項目から選んだものを学級の掲示物とし、意識して児童に呼びかけ
- 取り組みの成果（ノート・テストなど）を研修委員会で提示

実践発表概要④

八下中学校「学び合いの教育実践」

①生徒の課題から、特に重点とする目標

- 基礎学力の獲得
 - ・放課後学習会の実施
 - ・学びの振り返り
- 学びを深める集団づくり
 - ・「聞きあい・学びあう」授業の創造
 - ・グループワークの活用
- 学びを支える環境づくり
 - ・学びを支える授業ルールの確立
 - ・学習環境の整備
 - ・学力サポーターの活用

②放課後学習

- 「わからない」ときに「教えて」と言える雰囲気づくり
- 友だちや教師と共に学ぶことの大切さの意識づけ
- 基礎学力の定着（苦手意識の克服）
- 前・後期2期制、希望コース申し込み制（5コース）

③「聞きあい・学びあう」授業の創造

- 生徒
 - ・グループ活動の導入
 - ・「コ」の字型の机の配置
- 教師
 - ・授業の公開
 - ・授業研究の実施
 - ・授業研究後のフィードバック
- 授業での「振り返りシート」の活用
 - ・学んだこと、感じたこと、考えたことを100字程度でまとめる

④「学びを支える環境づくり」のために

- 授業の基本ルールの設定
 - ・学びの心がまえ（八下ルール）「準備編」「授業編」を設定
 - ・学びの心がまえを全学級に掲示
 - ・授業中のレベルを4段階で設定し、金・銀・銅・墨のマークで掲示（八下オリンピック）
- 学習の見通しの明示
 - ・自主的な学習意欲を高めるため、授業計画を保護者、生徒に知らせる。
- 学習支援のために、学力サポーターの活用

指導助言 鳴門教育大学 葛上秀文 准教授

○学力向上を進めるために考えなければならない時代

- ・特定の子どもへの対応では期待に応えられない時代
- ・様々な立場の者が学校に関わる時代
- ・人々の交わる力がきわめて限定的な時代

○学力向上を進める3つのキーワード

- ①課題の焦点化と組織的な取組（協働）、そして評価と改善（PDCA）
- ②地域・家庭の協力
- ③リフレーミング（前向きな学校文化）

○PDCAサイクルの導入

- ・ポイントは課題の焦点化
（自分たちで設定した課題であることが重要）

- ・何を变えるのか、そのために何が必要なのか
- ・取組のゴール（質的にも時間的にも）を設定すること

○地域・家庭との協力

- ・地域・家庭へのメッセージ
- ・地域・家庭からのメッセージ

○リフレーミングと学校文化

- ・リフレーミング → 否定的に偏りがちなとらえ方を前向きに
- ・長所と短所はコインの裏表の関係
- ・悪循環から正の循環へ